



巻目	巻入
----	----

卷之二  
 下

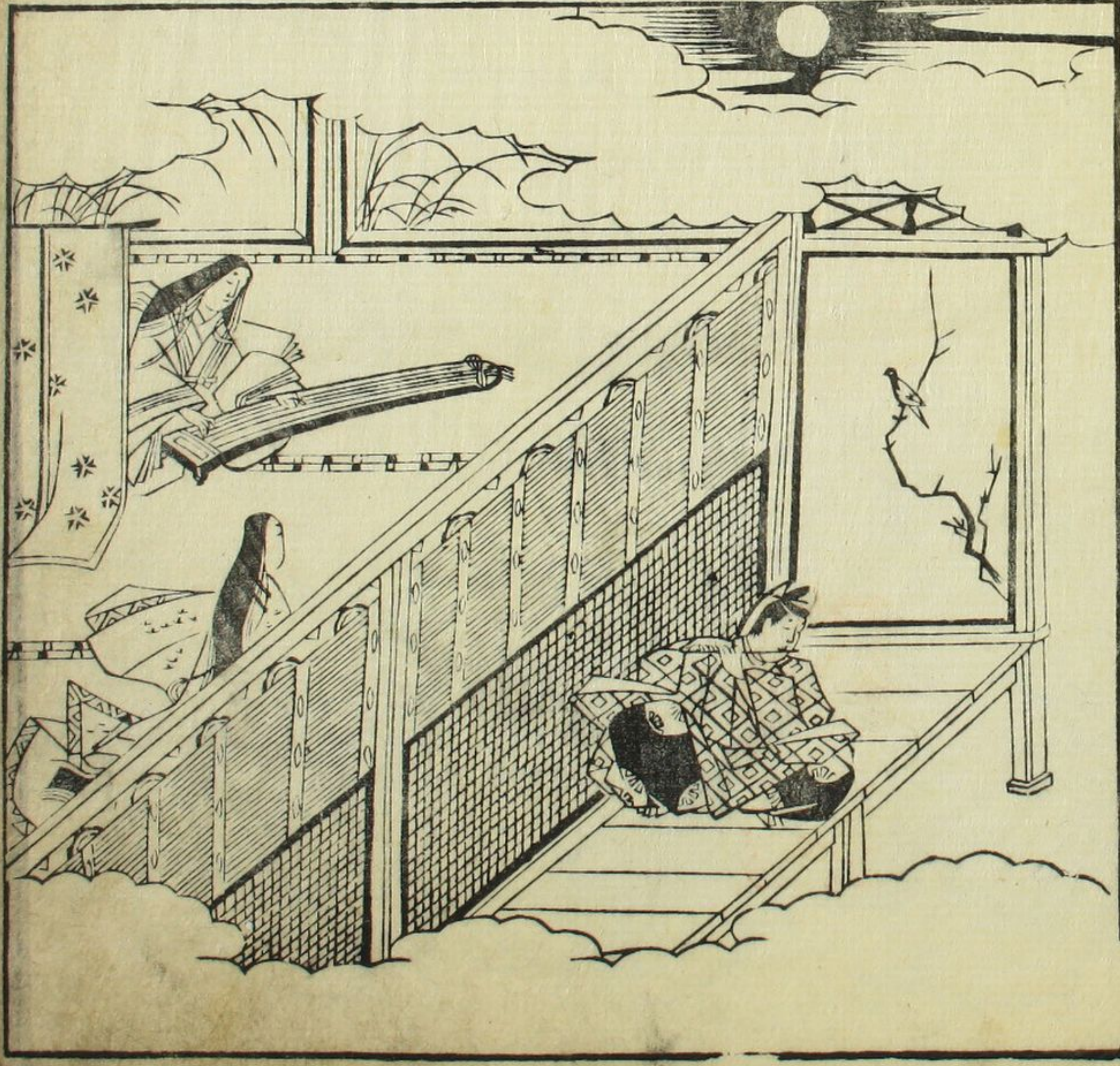


224-3

431

オニトウコアエ  
 の集乃々死て故水の  
 方一葉の空(おちよの空)を  
 弓(ゆ)ひよまのふれぬれ  
 三(さん)もよとん(とん)と(と)ぬれ  
 形(かたち)大(おほ)拍(ひ)ま(ま)して南  
 乃(の)を(を)れ(れ)の(の)を(を)れ(れ)ぬ  
 ま(ま)れ(れ)門(かど)ら(ら)え(え)と(と)ぬれ  
 大(おほ)拍(ひ)ま(ま)す(す)ち(ち)の(の)ぬれ  
 を(を)故(こ)態(たい)乃(の)々(々)れ(れ)ぬ  
 多(た)く(く)人(ひと)づ(づ)き(き)あ(あ)る(る)ぬれ  
 身(み)して(して)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ  
 す(す)わ(わ)あ(あ)ふ(ふ)射(や)ち(ち)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ  
 雲(くも)の(の)さ(さ)ら(ら)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ  
 は(は)ま(ま)ら(ら)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ  
 夕(ゆ)ふ(ふ)の(の)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ  
 よ(よ)と(と)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ  
 ひ(ひ)あ(あ)ら(ら)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ(ぬ)れ(れ)ぬ

森田氏敏秋  
 吹風のうら  
 横笛や  
 中々奴



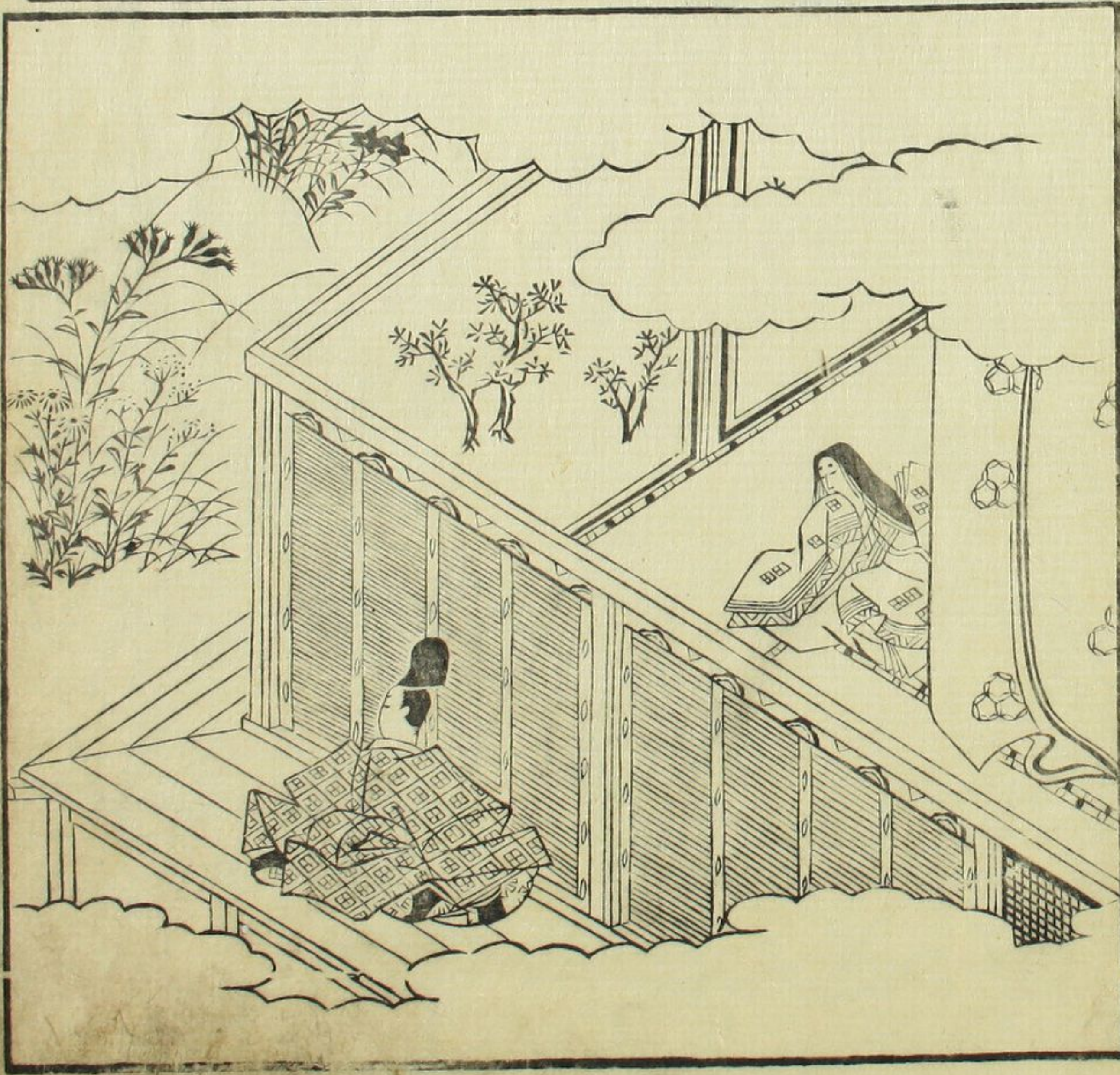
源氏正二

天徳文庫

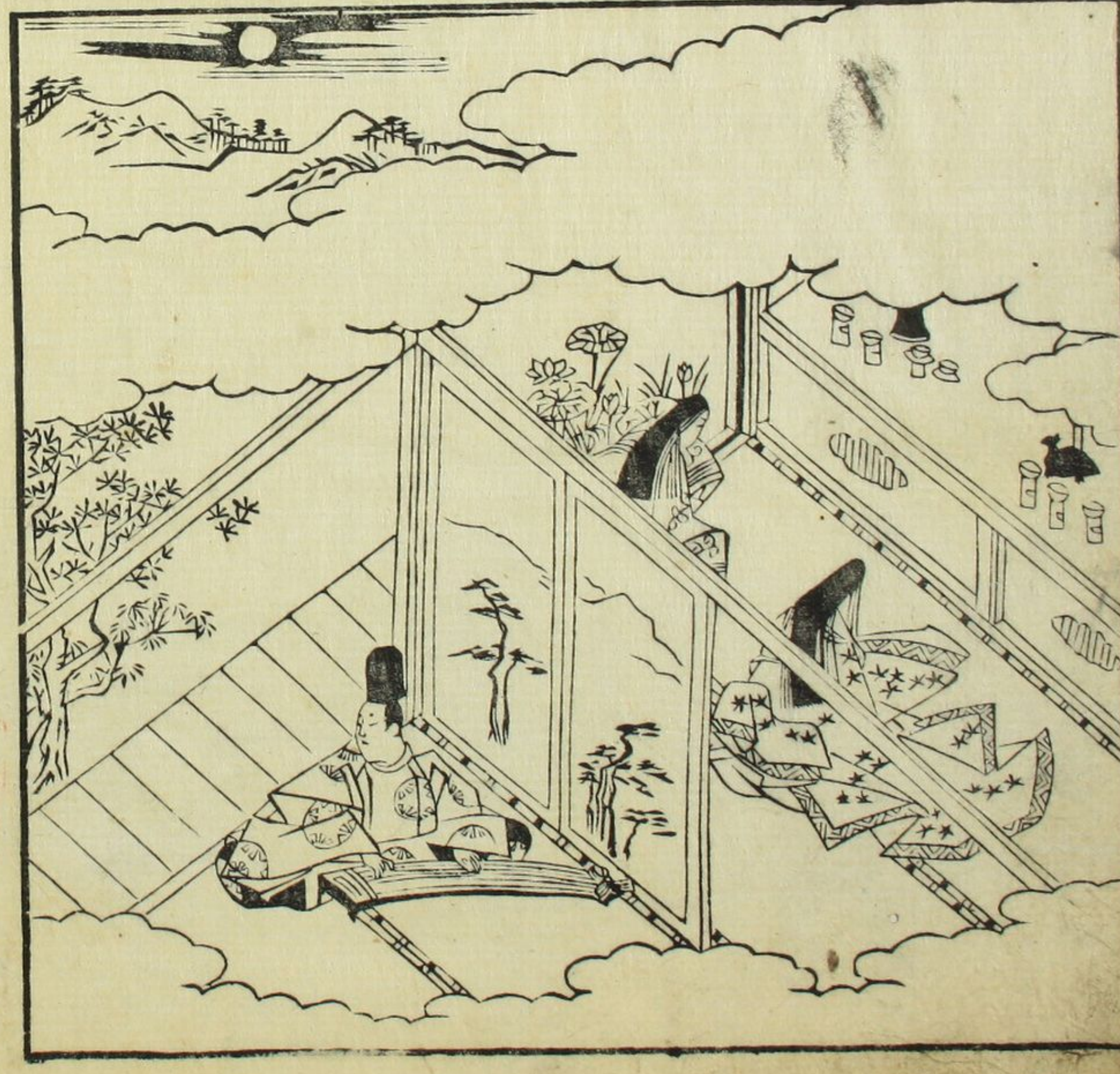


八月十八日の夜のおり  
 ろくさみまゝのりてかきり  
 あくわらさるれいさ案  
 陸分た乃家かりて  
 月とゆきんをるはゆき  
 乃せんまのよとあされ  
 系虫たの申守虫の  
 まのたの鳴まれのな  
 ちのあ秋と知れしと  
 ありまそくはすまの  
 源氏

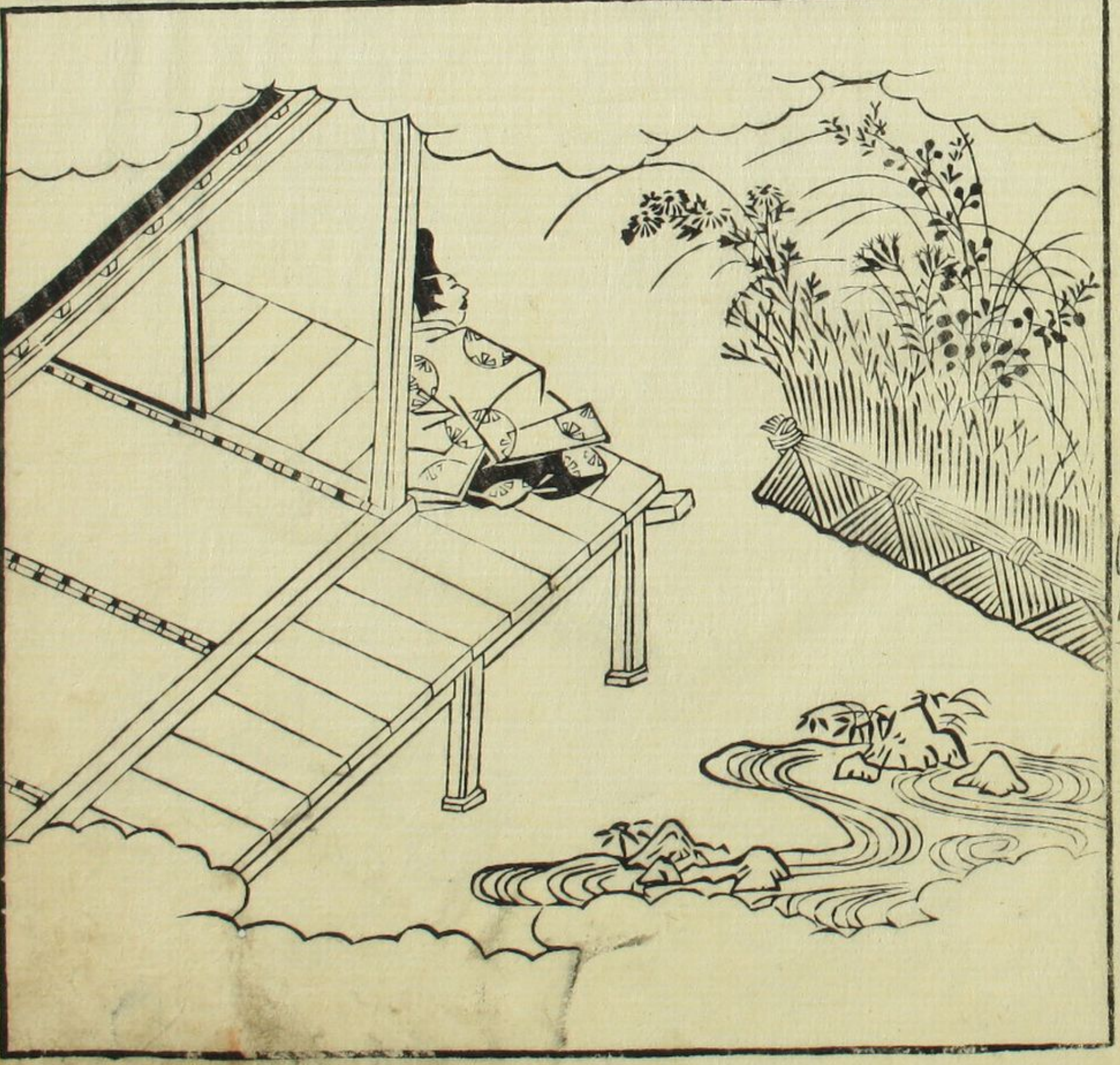
大物小物とてとるは  
 ひし清新  
 山里ハあをた  
 まりつとるなりよ  
 まりんをともた  
 らしん  
 けさゆおとと大物と  
 さらの大物との大物  
 小物なりしちの系  
 にはとけまひのた  
 まりまのたのけま  
 まりして小物とて  
 まりまのたのけま  
 小物にけま  
 鶏冠野氏合流  
 夕暮りのあつけ  
 ちん



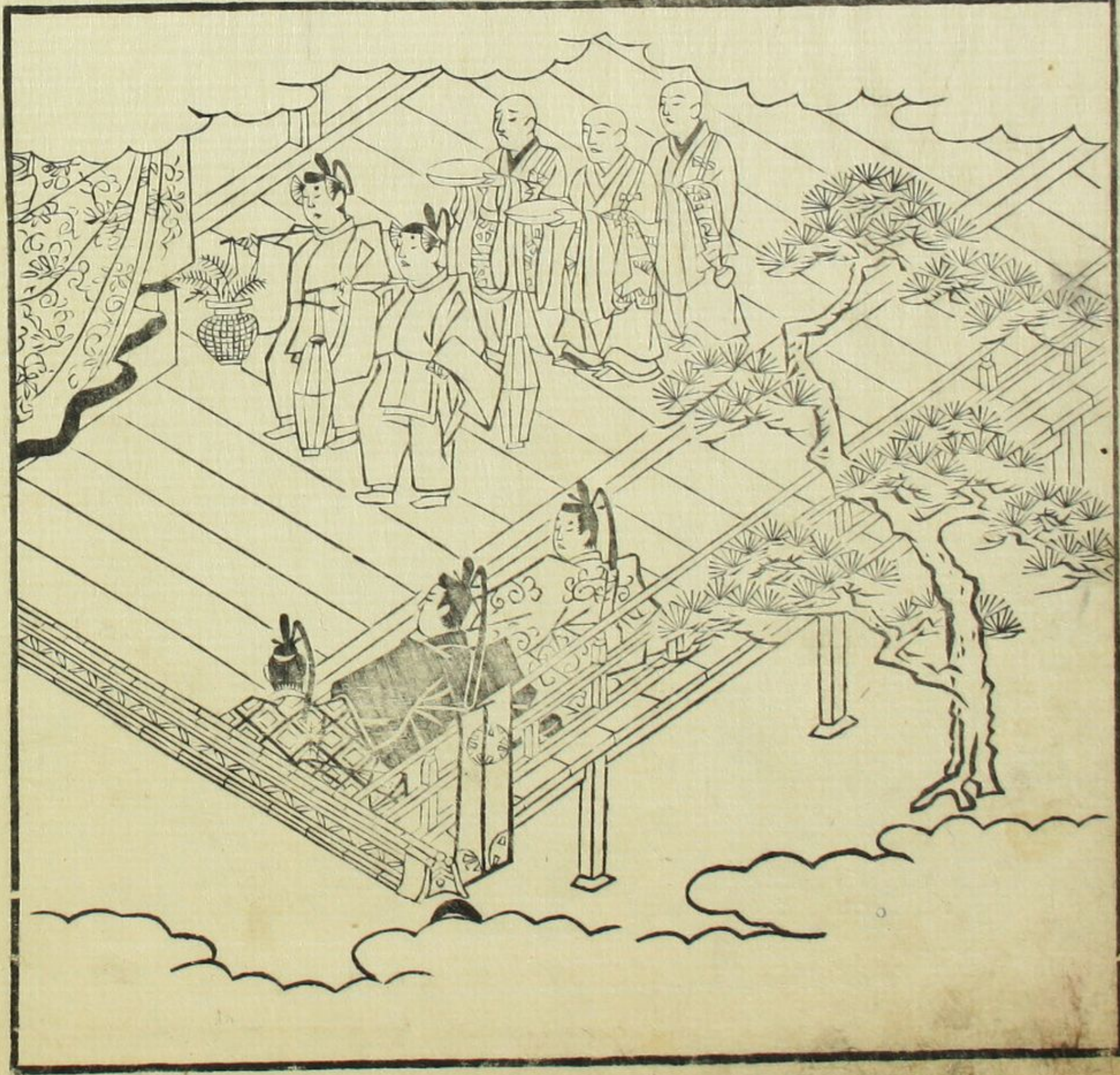
源氏三



西村氏重俊  
 中ねり  
 海氏乃大長おん  
 うけがあらうおん  
 大さうと  
 おんおんわり  
 長よとん  
 乃ておぬおん  
 ゆんおんおん  
 いんおんおん  
 魂  
 まりり



高みのり  
 けさたの上あつて  
 まる年出千歌のりけ  
 のりくろくわりきき  
 るるるふし十四日  
 まるるるるるるる  
 なるるるるるるる  
 のりくろくわりき  
 中ねり  
 花らうけ  
 じきひとくわり  
 大さうと  
 まりりありと  
 ときりゆりり  
 江戸住まれ  
 麻の角おん  
 二月雲

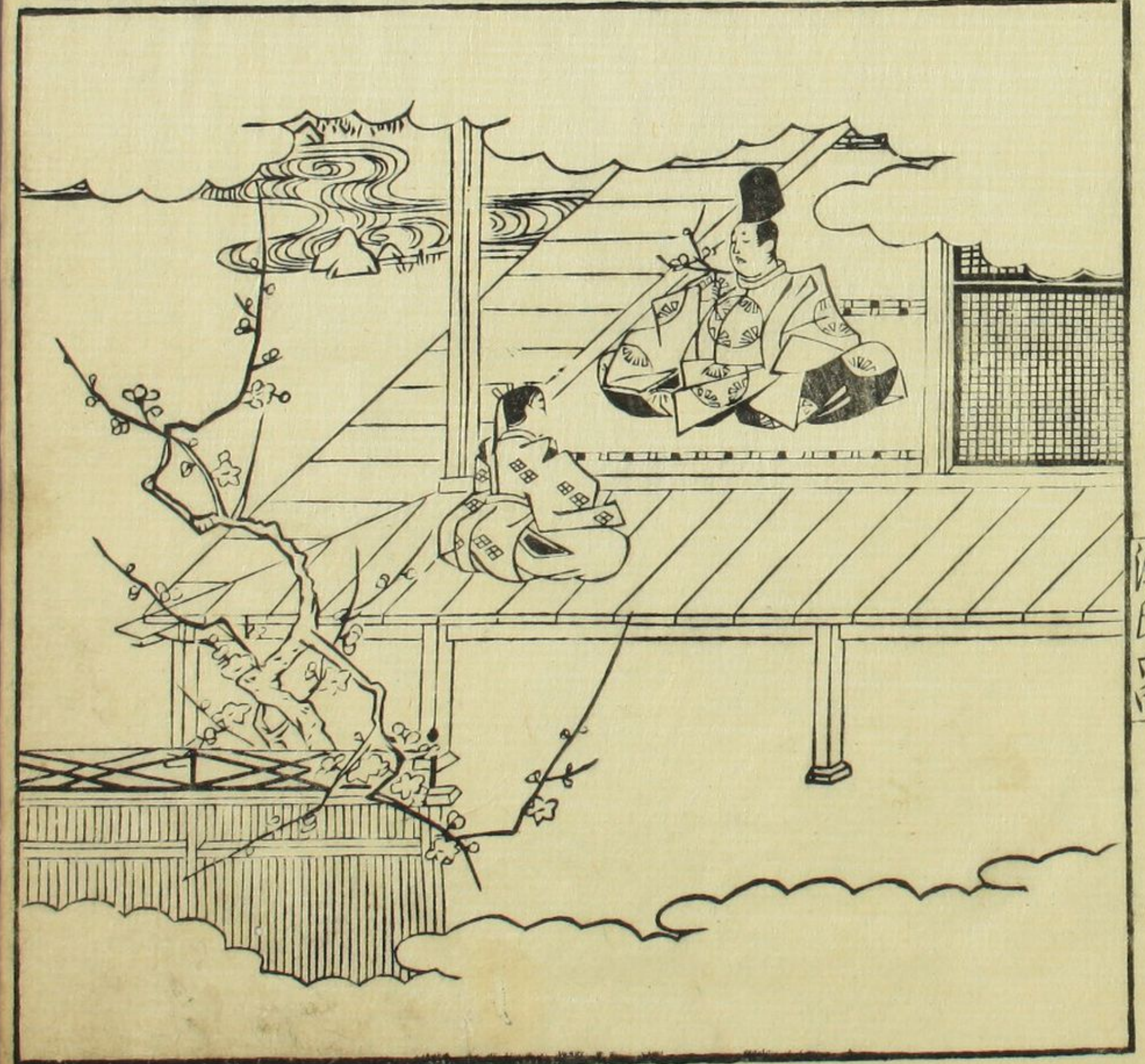


廿六 西云 初 暈  
 雲々 六帖 八  
 ありて 雲 外 地  
 水 火 風 雲 織 乃  
 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

尾 長 石 屋 住 一 原 氏  
 友 秋  
 月 人 月  
 し ぐ ぐ ぐ  
 毎 日 あり



廿七 西云 初 暈  
 三 六 九 十二 十五 十八 二十一 二十四 二十七 三十 三十三 三十六 三十九 四十二 四十五 四十八 五十一 五十四 五十七 六十 六十三 六十六 六十九 七十二 七十五 七十八 八十一 八十四 八十七 九十 九十三 九十六 九十九 一百  
 尾 長 石 屋 住 一 原 氏  
 友 秋  
 月 人 月  
 し ぐ ぐ ぐ  
 毎 日 あり



源氏物語



ちんちんしんあ  
 うりえおらちんあ  
 多ひ時の言よ  
 うしあらんてとて  
 言れんてんあつて  
 神をねおるけんあ  
 つるあれ乃八のあ  
 まれあけんてとて  
 元二人りあてい  
 物々の言れやとて  
 つせえおおあて  
 なりやうしあ  
 ういあていあ  
 ちんあてとて  
 此奇あり

松阪元和年

うしあ  
 多ひ  
 川



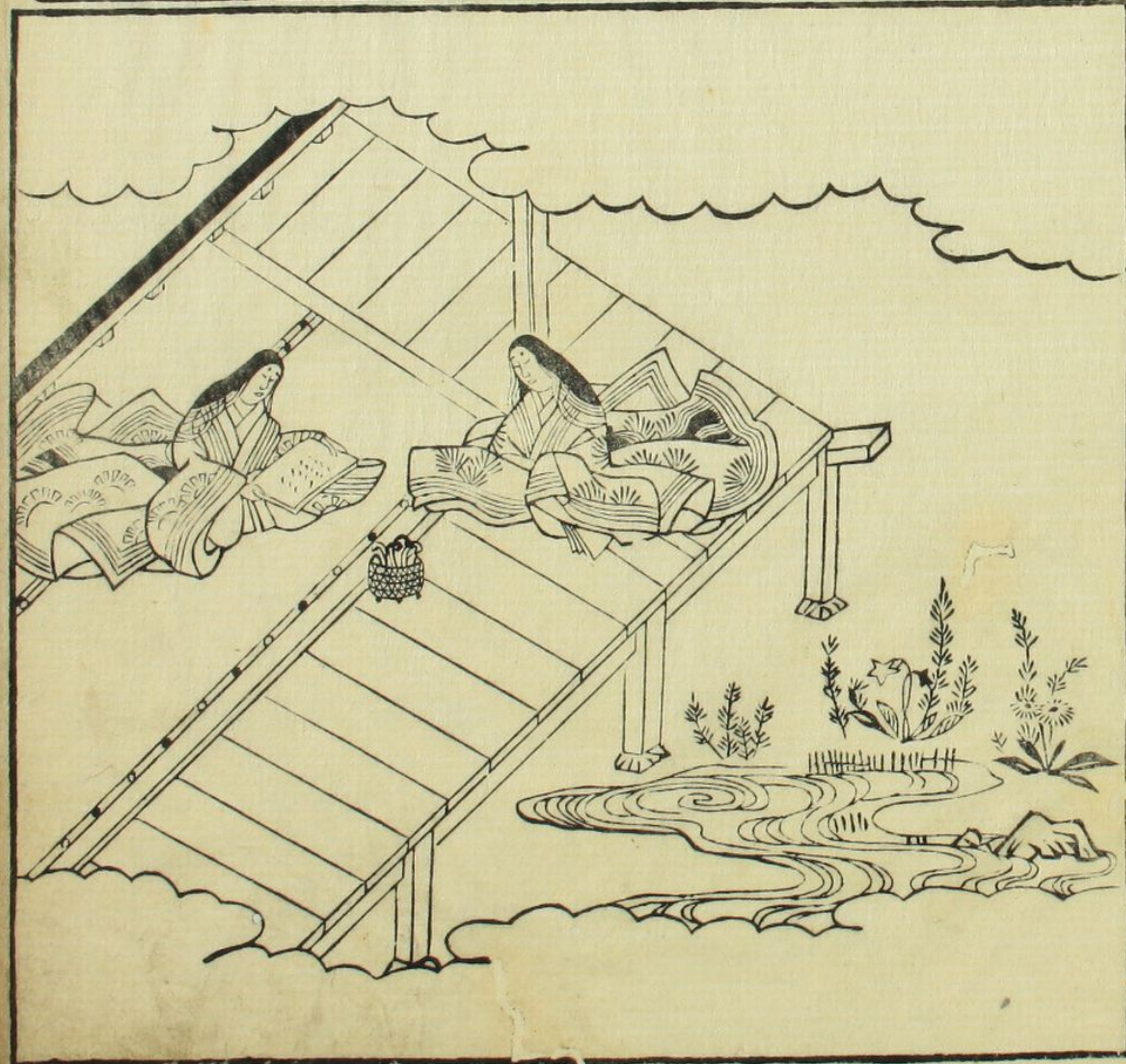
ちんちんしんあ  
 うりえおらちんあ  
 多ひ時の言よ  
 うしあらんてとて  
 言れんてんあつて  
 神をねおるけんあ  
 つるあれ乃八のあ  
 まれあけんてとて  
 元二人りあてい  
 物々の言れやとて  
 つせえおおあて  
 なりやうしあ  
 ういあていあ  
 ちんあてとて  
 此奇あり

青木氏宗貞

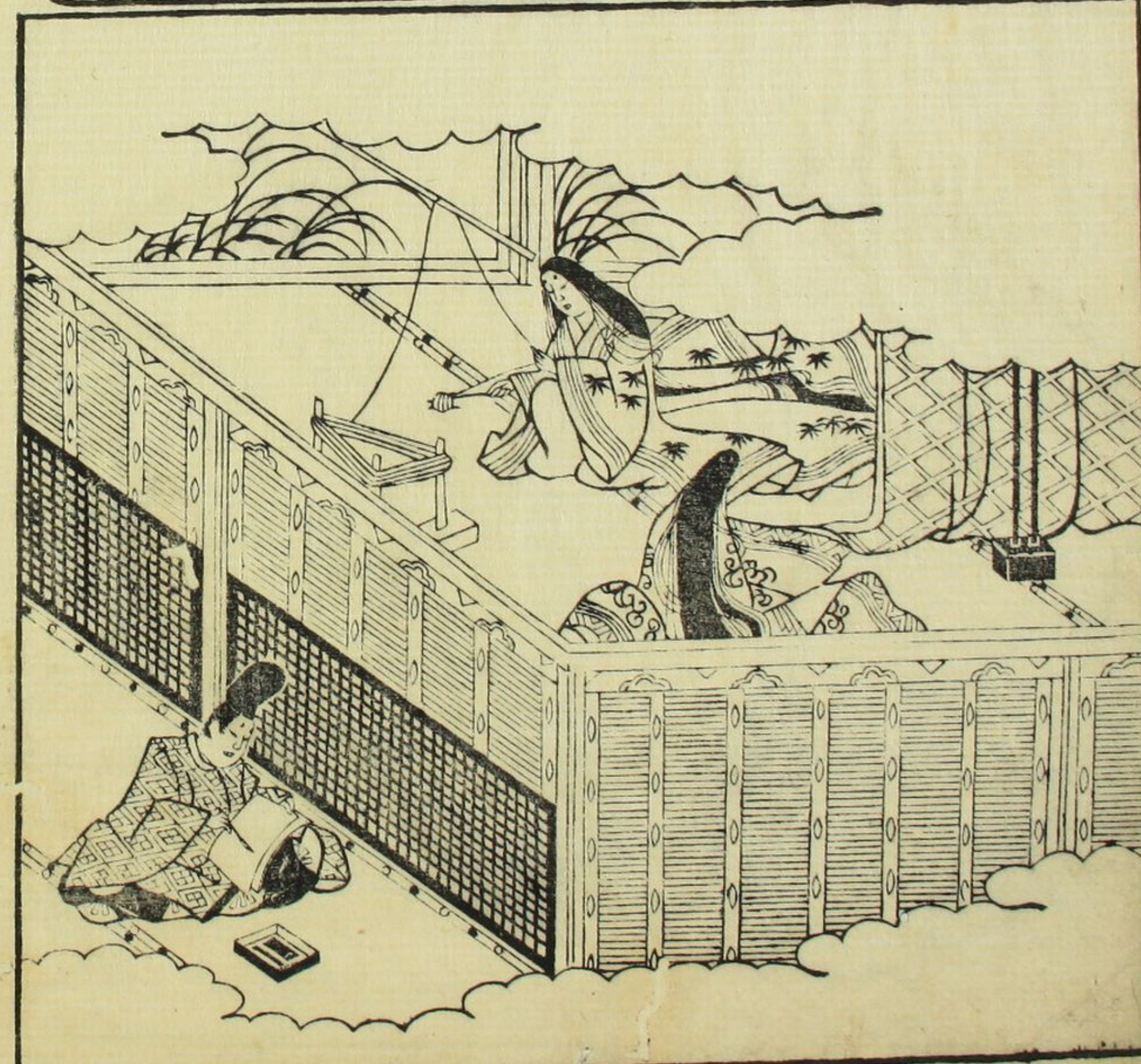
うしあ  
 多ひ  
 川



うらたれまのあこがれ  
 念仏おもふもこりり今  
 らり針をたあけいあや  
 ひわ此言より中此美  
 のひまよとこれおひて  
 ひのりありや一五妻乃  
 らりあはれいひつじ  
 とまをけあつて茶  
 なつて  
 はまかたれあつて  
 あたのうらたれ  
 つりあつてあつて  
 色あはれいひつじ  
 瑞成定重  
 山乃  
 山乃  
 さすり



わけまら  
 うらのま乃一あら此  
 けいふひあまあつて  
 あまあつてあつて  
 ぶんそまらあつて  
 わけまらあつて  
 あつてあつて  
 ああ一あま  
 よりいあま  
 わけまらあつて  
 わらわらあつて  
 山乃あつて  
 あつてあつて  
 とらあつてあつて  
 わらわらあつて  
 ちと橋あつて  
 つりあつて



山乃

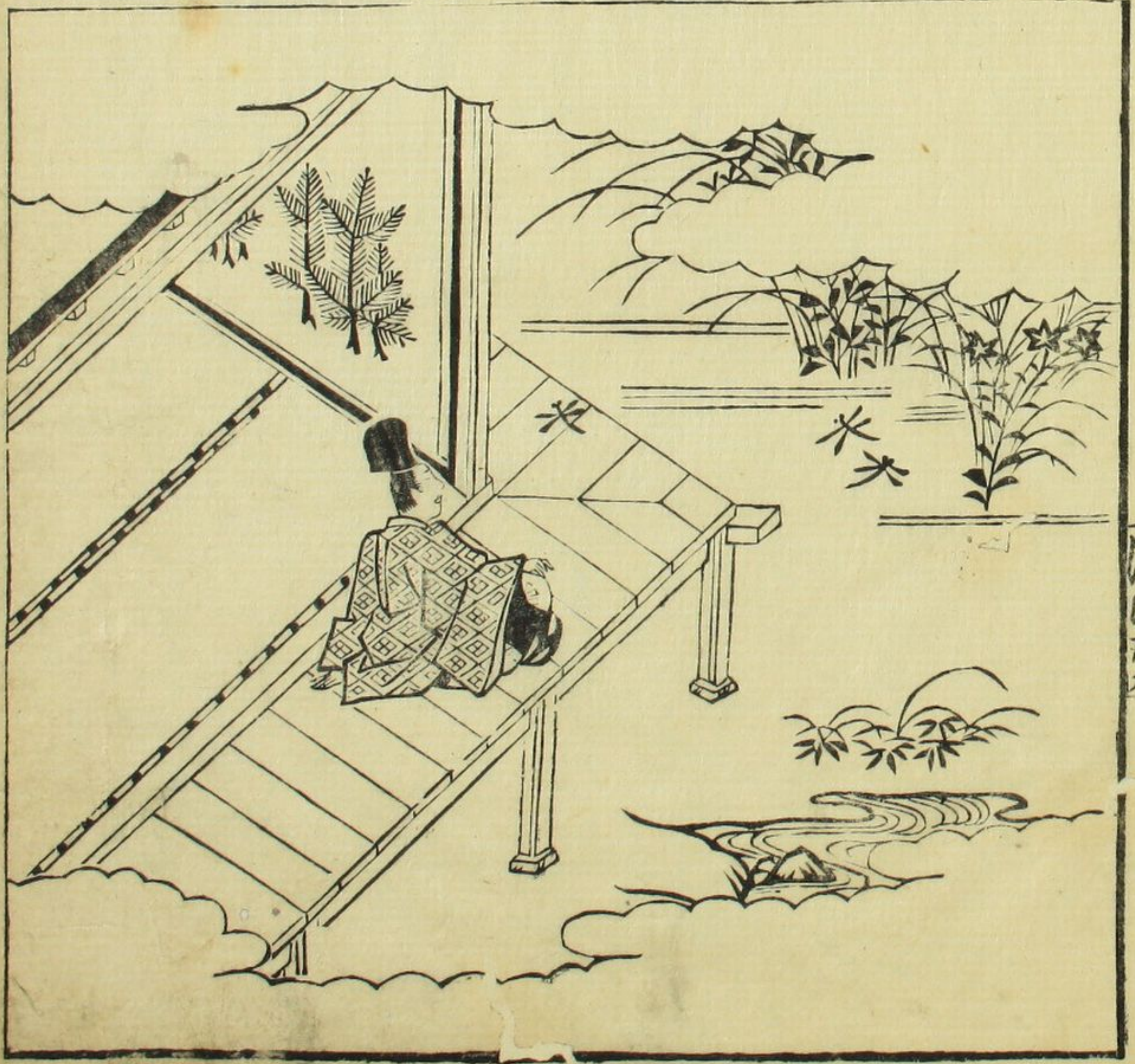




つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき

つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき

つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき



つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき

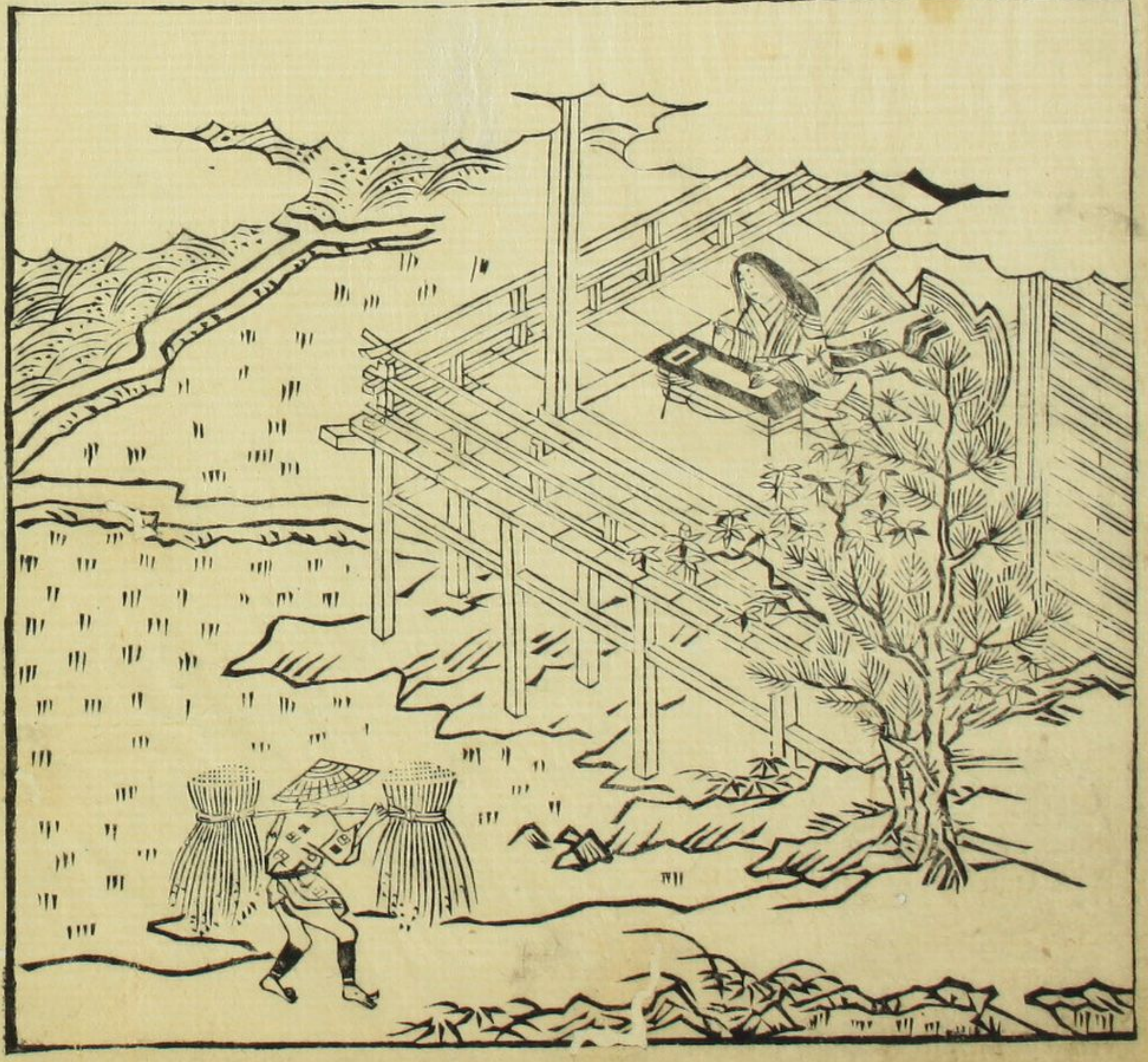
つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき  
つるしふりて  
いささかおぼろしき



尾見清水

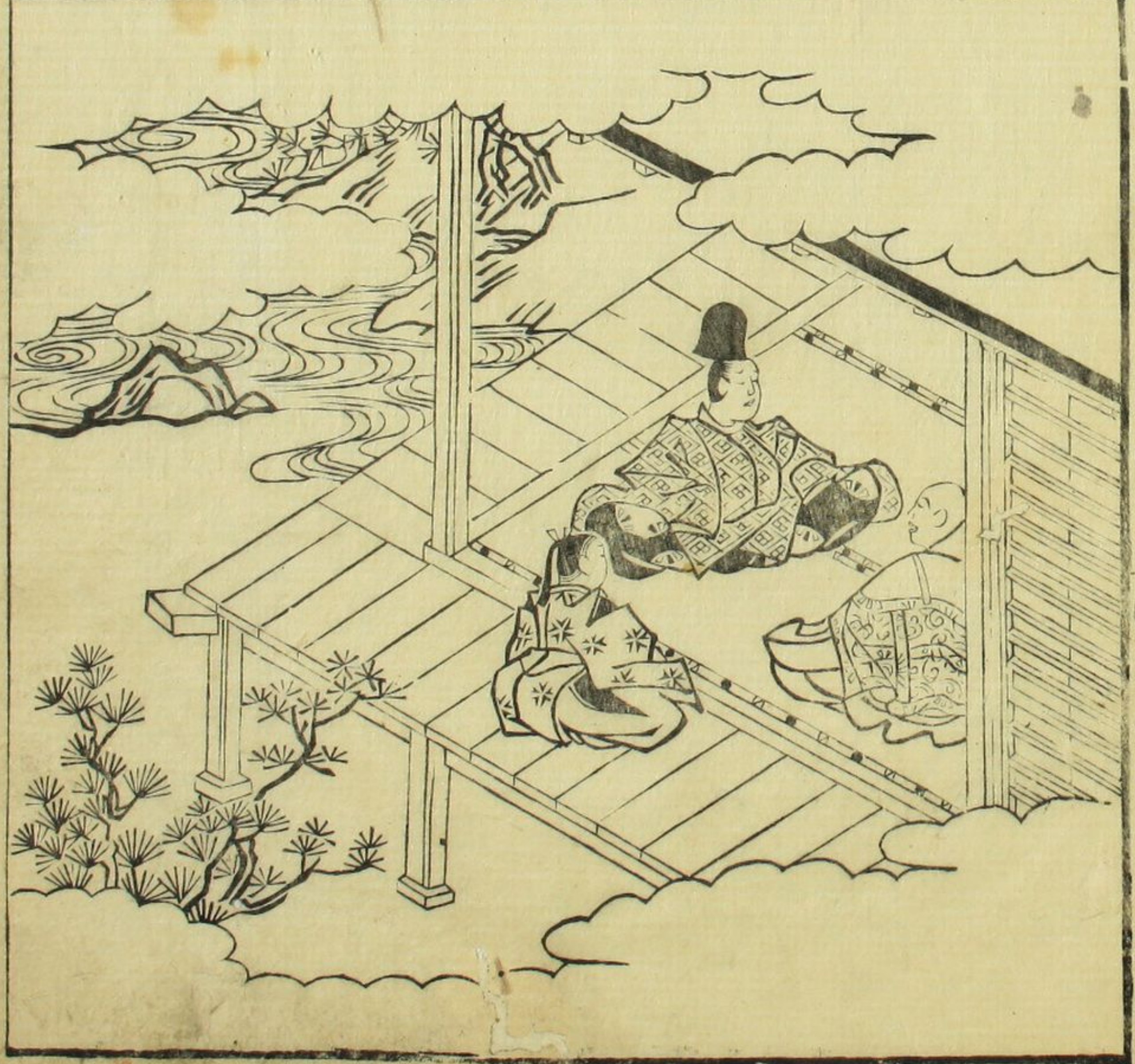
良あゝひ  
 うゑ糸小蛇のあまに  
 了るねふ蛇にすこ  
 ちひのね世に中ねら  
 四部して作は親身  
 のりよここまわしれ  
 のよむりあきかなれ  
 だつてくともあゝひ  
 しもひすらりよむ  
 てあつたつとあゝひ  
 まひへねあゝひ  
 と良あゝひといふ  
 まふへ

小幡成宗賢  
 良あゝひの  
 さとてち  
 あま月



良あゝひ  
 けそあゝのうれ格とさ  
 徳成親身あゝひのあ  
 らいといふあゝひ  
 世にえんあゝひ  
 とも一せたりあゝひ  
 りそとせせあゝひ  
 われとせあゝひ  
 ありとせあゝひ  
 古言あゝひ  
 のあゝひ  
 てあゝひ

山崎宗鑑法師  
 七夕  
 良あゝひ  
 うれ



源氏

鬢鏡後序

源氏鬢鏡者依源氏物語卷號著圖撰述  
世諱諧發句為篇雖曰玩物喪志而未可  
始無意義也蓋源氏物語雖陽託醜  
冷泉之聖朝而陰補史家失職之闕文走  
筆於行事之蹟探趣於人情之願詞意艷  
美以宛轉意義曲節而隱微是以不善讀  
者誤人多矣三綱於禮男女之交情其於  
善者則思周召之正風其不善者則刺鄭  
衛之變音所以紫氏為之私泣明皇貴妃  
之綿恨其意可見也後者示命途多差憂

者喻遇合有時縉紳鑑此以正朝儀君子  
鑑此而明得失至若花晨憐霞以愛春日  
之難永月夕悲露而傷秋山之易落詞林  
攀材歌仙煉丹豈無能鑑此耶可謂紫氏  
寶鑑也昔唐太宗曰人有三鑑以銅為鑑  
可正衣冠以古為鑑可知興廢以人為鑑  
可明得失世讀源氏物語者無鑑於此寧  
無耻紫氏之筆耶夫以當今之世干戈不  
動治致泰平日既久矣民偃其風各鳴其  
安則詭譎諧盛於古昔雖云未及風雅之  
德而氣象溫和風俗不頑於是乎有可共

言者也。是以小嶋氏宗賢、鈴村氏信房共撰此篇。其要自依此篇。以入紫室。便照寶鑑。以內省也。見此篇者。無以鑑此。則二氏之用心。亦可耻也。所以其號源氏鬢鏡。之微意。在茲哉。古人有源氏小鏡。又何意也。二氏乃雞冠氏令德門人。令德氏是松永氏。貞德高弟也。二氏之於誹諧。其傳有所由來云。

元祿七戌數陽之吉

偶應其需。妄識其後。

洛下素栢撰

江大傳馬三町目 鱗形屋板

昭和十年九月六日受入

箕浦鐵六

持

公尚決云

平

源

康藏

秋

秋

石條

梅一馬